

定期作況報告

令和2年8月
(8月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温、平均気温は低かった。降水量、日照時間も平年よりやや少なかった（いずれも平年比73%）。

8月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なく（平年比18%）、日照時間は平年並であった（平年比113%）。

8月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温はやや高く、平均気温は高かった。降水量は平年より少なく（平年比15%）、日照時間は平年より多かった（平年比159%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

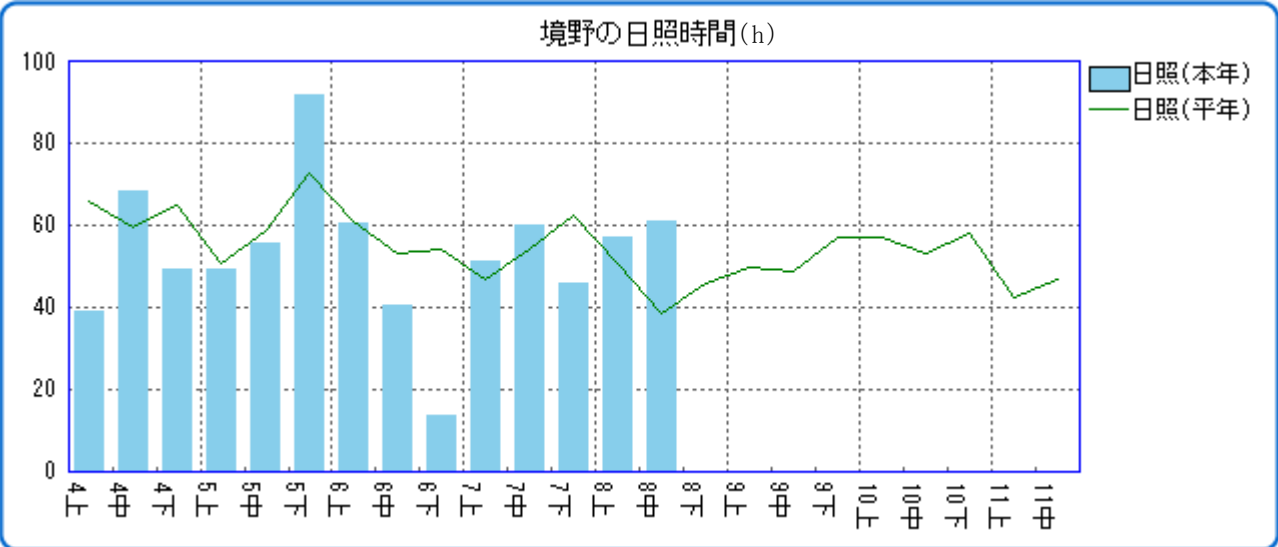
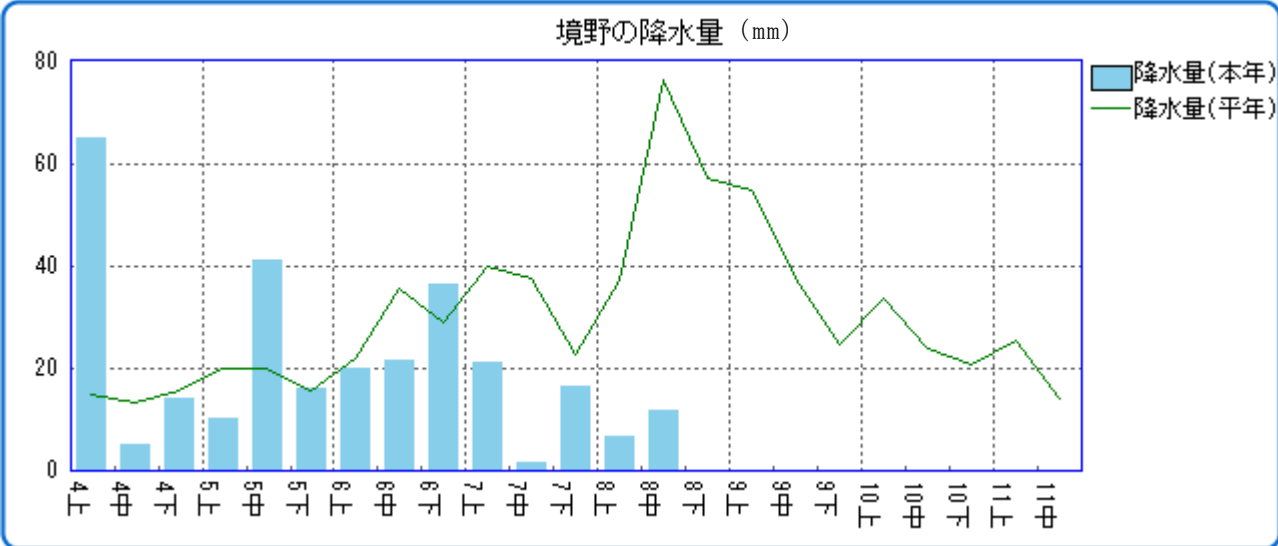
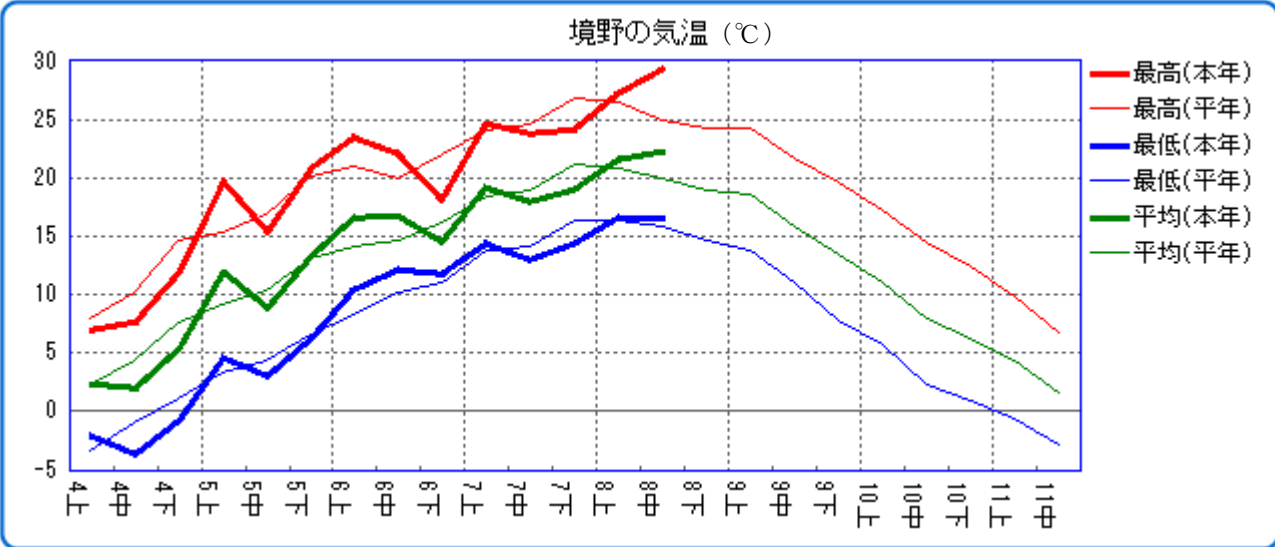
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	18.9	21.1	-2.2	24.1	26.8	-2.7	14.4	16.3	-1.9
8月 上旬	21.6	20.8	0.8	27.2	26.4	0.8	16.6	16.4	0.2
8月 中旬	22.2	19.9	2.3	29.2	25.0	4.2	16.6	15.8	0.8

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	16.5	22.5	-6.0	46.0	62.6	-16.6
8月 上旬	6.5	37.1	-30.6	57.3	50.5	6.8
8月 中旬	11.5	76.2	-64.7	61.1	38.4	22.7

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：平年並

事 由：成熟期は7月28日で平年より5日遅かった。登熟期間は平年より3日長かった。子実重は平年比100%であった。リットル重は平年を下回り、千粒重は平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.28	7.23	5
子実重(kg/10a)	730	732	△2
同上平年比(%)	100	100	0
リットル重(g)	793	805	△12
千粒重(g)	41.8	39.6	2.2

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：成熟期は平年より4～5日遅かった。出穂期が平年より3～4日遅かったため、登熟期間は平年並であった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少なかった(前報)。7月21日の降雨によって両品種とも倒伏程度は多以上であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.9	8.5	4	8.12	8.7	5

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月下旬が低温傾向で推移したことから、開花期および抽糸期はそれぞれ平年より1日遅かった。その後8月上中旬は高温傾向で推移し、日照時間も平年並から多く経過したことから、草丈は平年並の288.0cmである。葉数は平年より1.1枚少ない13.9枚であるが、生育に目立った遅れは生じていない。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	8.1	7.31	1
抽糸期 (月.日)	8.1	7.31	1
草丈(cm) (8月20日)	288.0	285.4	2.6
葉数(枚) (8月20日)	13.9	15.0	△1.1

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況：やや良

事 由：開花始は平年より4日早く、主茎長と分枝数はほぼ平年並で、主茎節数は平年と比較してやや少ない。着莢数は平年より1割多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.17	7.21	△4
主茎長(cm) (8月20日)	66.4	64.9	1.5
主茎節数(枚) (8月20日)	10.0	10.7	△0.7
分枝数(本/株) (8月20日)	5.7	5.9	△0.2
着莢数(莢/株) (8月20日)	84.2	76.4	7.8

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆 作況：良

事由：開花始は平年より4日早かった。平年と比較して、「サホロシヨウズ」の主茎長は短く、「エリモシヨウズ」はやや長かった。両品種とも主茎節数は平年よりやや少ないが、分枝数と着莢数は平年と比較して大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.20	7.24	△4	7.21	7.25	△4	7.21	7.26	△5
主茎長(cm) (8月20日)	64.3	71.4	△7.1	67.7	63.4	4.3	62.9	67.6	△4.7
主茎節数(枚) (8月20日)	12.4	13.1	△0.7	13.3	13.8	△0.5	11.8	13.1	△1.3
分枝数(本/株) (8月20日)	6.0	3.6	2.4	6.8	3.3	3.5	5.2	3.0	2.2
着莢数(莢/株) (8月20日)	63.6	39.6	24.0	67.7	36.6	31.1	62.9	36.2	26.7

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は、前6か年(平成26~令和元年)の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆 作況：やや良

事由：草丈と分枝数は平年を上回り、主茎節数は平年をやや下回り、着莢数は平年と比較してやや多い。登熟は順調に進んでいる。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	44.4	40.2	4.2
主茎節数(枚) (8月20日)	5.3	5.5	△0.2
分枝数(本/株) (8月20日)	5.5	5.0	0.5
着莢数(莢/株) (8月20日)	22.0	20.0	2.0

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：茎長は両品種ともに平年を大きく上回った。地上部の伸長は停止し、「男爵薯」は茎葉の黄変・枯凋が進んでいる。7月下旬にまとまった降雨があり、塊茎の肥大が急激に進んだことにより、両品種ともに上いも重は平年を大きく上回っている。一方、「男爵薯」のでん粉価は平年をやや下回り、中心空洞が散見された。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長 (cm) (8月20日)	73	49	24	111	90	21
上いも重 (kg/10a) (8月20日)	5329	4613	716	4343	3765	578
でん粉価 (%) (8月20日)	14.4	15.6	△1.2	19.1	19.1	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：この1か月間は降水量が少なく、移植、直播ともに茎葉重、根重は平年よりやや少ないが、草丈、生葉数、根周は、ほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈 (cm) (8月20日)	63.0	58.5	4.5	61.1	58.1	3.0	66.6	60.6	6.0
生葉数 (枚) (8月20日)	24.1	22.6	1.5	26.7	25.7	1.0	21.8	21.5	0.3
茎葉重 (g/個体) (8月20日)	715	739	△ 24	796	832	△ 36	732	734	△ 2
根重 (g/個体) (8月20日)	730	770	△ 40	719	779	△ 60	549	572	△ 23
根周 (cm) (8月20日)	31.0	32.8	△ 1.8	32.0	33.7	△ 1.7	28.7	28.2	0.5

注1) 平年値は前7か年中、26年(最豊)、平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: 平年並

事由: 2番草収穫は平年より2日早い8月6日に行った。前番草収穫後は平年に比べて降水量が少ないものの、やや冷涼で、チモシーの生育に適した気温で経過したことから、収穫時の節間伸長程度は平年より高く、2番草の乾物収量は平年比115%と多かった。1番草と2番草の合計乾物収量は平年比97%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	8.6	8.8	△2
節間伸長程度	2番草	4.5	3.7	0.8
病害罹病程度	2番草	2.0	2.1	△0.1
草丈(cm)	2番草	66	63	3
生草収量(kg/10a)	2番草	946	881	65
乾物率(%)	2番草	24.7	23.8	0.9
乾物収量(kg/10a)	2番草	233	203	30
同上平年比(%)	2番草	115	100	15
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	761	784	△23
同上平年比(%)	1+2番草	97	100	△3

注) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。